

この冬の作業上の注意点について

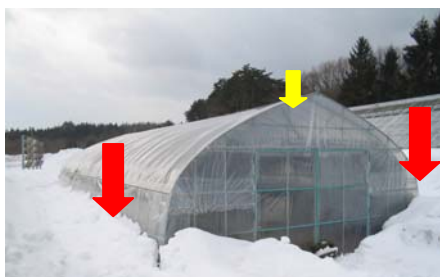
1 はじめに

この冬は例年よりも積雪が多く、当センター内人工ホダ場では、散水管の折損や遮光資材の落下などがありました。今年は積雪が多く除雪作業が大変な時期ではありますが、冬期間は比較的労働力確保が容易です。ハウスなど暖かい場所を利用し植菌作業を進めてください。

2 施設の除雪と管理

3月までは大雪や落雪の心配があります。天気予報に注意しビニールハウスや人工ホダ場の除雪体制を整えておきます。

ビニールハウスは、初めにハウスから落ちて脇に積もった雪(赤色部分)を取り除き、次にハウスに付着している雪を落とします。最後に落とした雪を取り除きます。ハウス脇に落ちた雪を放置しておきますと、引っ張られ天井部分が破損しやすくなります。雪がビニールに凍りつく前に除去しましょう。



両脇の除雪を行わないと、天井中央部(黄色部分)が破損します。

人工ほだ場の場合、遮光資材や雨除け資材用のパイプ等に付着した雪が落ち、遮光資材や散水管などを破損することがあります。早めに長い竹竿等で取り除いてください。



天井及び遮光資材上部への着雪

被害を受けた施設は、倒壊の危険を避けて早期に復旧計画を立てるとともに、今後の雪に備えて、必要部分は応急修理を行います。水はけの悪いところでは、雪どけ水が溜まらないように、除雪した雪は支障ない所に搬出します。

3 原木及び種菌の調達

(1) 原木

この冬は大雪や雪崩の危険があるため、伐採や搬出は例年より遅れています。原木は、注文が遅くなるほど手元に届く時期も遅くなります。速やかに注文することが必要です。

(2) 種菌と錐

種菌は、植菌本数が決まったら、穴あけ用錐(ドリルの刃)と併せて注文します。駒用の錐は、半月とらせんがあります。半月は抵抗が少なく、らせんは長持ちすると言われています。なお、成形菌・オガ菌用はらせんのみとなります。

オガ菌を購入する場合には、植菌棒やロウも併せて購入します。

4 原木の保管と植菌前の作業

購入した原木を屋外に置く場合は、直射日光による乾燥、雪や雨による過湿を避けるために、棒積みしてビニールシートで覆います。

屋外で保管した原木は、外気温が氷点下の場合には、原木も氷点下になります。シイタケ菌は、5℃以上でなければ生長しないため、植菌する原木は、天気の良い日などにビニールハウスに搬入しておき、植菌作業が始まる前まで原木を暖めます。

氷点下の気温下で保管した原木を無加温ハウス内に入れた場合、早ければ翌日日中には原木内の温度が5℃以上になります。

5 仮伏せ

植菌が終わったら、シイタケ菌を寒さと乾燥した天候から保護するため、仮伏せを行います。ハウス内では3月に入ると急激に内部温度が高くなりますので、仮伏せは腰高にして上部を新聞紙やダンボール等で覆います。

(担当 林産利用部 上席専門研究員 小原孝文)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11 TEL 019-698-1337
岩手県林業技術センター FAX 019-697-1410
ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/hp1017/>